

平成18年度 第9回業績評価委員会医学研究評価部会議事要旨

1. 日時：平成19年2月22日（木） 13:00～17:00
2. 場所：労働者健康福祉機構本部 18階第1会議室
3. 出席者：櫻井委員長、大橋委員、吉田委員、高田委員、柳澤委員、堀田委員、山田委員、田口専門委員、別府専門委員、根本専門委員、江藤専門委員、安藤専門委員、小林専門委員、小川専門委員、長尾専門委員、水野専門委員、中村専門委員、関原総括研究ディレクター、島浦勤労者医療課長

4. 議事

(1) 開会

委員8名の内7名、各分野の専門委員1名以上の出席があり、定足数を超えていることから医学研究評価部会が成立していることを宣言して開会。

(2) 理事長から櫻井委員長へ「せき髄損傷」、「身体への過度の負担による筋・骨格系疾患」、「四肢切断、骨折等の職業性外傷」、「職場復帰のためのリハビリテーション」、「業務の過重負荷による脳・心臓疾患（過労死）」、「勤労者のメンタルヘルス」分野の研究開発の中間評価について諮問

(3) 中間評価について

あらかじめ実施された書面評価（評価項目：研究開発計画の達成度（成果）、今後の研究開発計画の妥当性、研究継続能力）を踏まえてヒアリングが行われ、その後、各委員、専門委員により討議が行われた。

「せき髄損傷」分野

研究の実施について申請どおり承認された。

「身体への過度の負担による筋・骨格系疾患」分野

研究の実施について申請どおり承認された。

「四肢切断、骨折等の職業性外傷」分野

研究の実施について申請どおり承認された。

「職場復帰のためのリハビリテーション」分野

研究の実施について申請どおり承認された。

「業務の過重負荷による脳・心臓疾患（過労死）」分野研究の実施について申請

どおり承認されたが、気をつけるべき点として以下のコメントがあった。

〔研究1について〕

- 1 収集したデータの解析が遅れている状況を踏まえ、早急に改善措置を講じること。また、ケースコントロールスタディの是非を検討するとともに、イベント発症例の収集方法を見直し、検討・分析の価値が見出せる程度の症例数の確保に努めること。また、解析にあたっては、研究アドバイザー等統計の専門家の助言を得ること。
- 2 平成19年度が本研究開発期間の最終年度であることを踏まえ、研究開発を確実に進めるための体制強化について検討すること。
- 3 より有意義な研究成果を導き出す観点から、本部と調整の上、長いスパンで研究を継続できるようなシステムの構築について、引き続き検討すること。

〔研究2について〕

- 1 アンケート調査結果において、さらなる症例数の確保に努めること。

〔研究3について〕

- 1 バイアスのかからないよう背景因子を十分に検討した上で、変数を選んで多変量解析をしないと誤った結論を導き出す可能性があることから、今後、解析を行うにあたっては、研究アドバイザー等、統計の専門家に相談した上で十分に検討し結論を出すこと。
- 2 研究1にて収集した業務データを有効活用するなど、共通なストレス評価法の使用を検討すること。

「勤労者のメンタルヘルス」分野

研究の実施について申請どおり承認された。